

第2回議会だよりモニター連絡会議 報告書

令和8年1月30日に開催された議会だよりモニター連絡会議において、モニターの皆様と意見交換を行いましたので、その概要を報告いたします。

1 モニターを経験しての感想

多くのモニターから、「これまで議会だよりをあまり意識して読んでいなかったが、モニターになったことをきっかけにしっかり読むようになった」との意見がありました。自分に関係のある内容だけでなく、全体を通して読むようになったという声もあり、モニター制度が議会だよりへの関心を高める契機となっていることがうかがえました。

一方で、「内容が難しい」「専門用語が分かりにくい」「理解するのに時間がかかる」との意見が多く出されました。特に「議案第〇号」等といった議会特有の専門用語については、仕組みを知らないと読みづらいとの指摘がありました。また、議会の仕組み等について、モニター開始時に基礎的な説明があるとよいとの提案もありました。

編集面については、写真や図、グラフの活用が進み、以前より見やすくなったとの評価があり、改善の努力が一定の評価を得たと考えております。

QRコードの活用については、「良い取り組み」との声がある一方、「動画を見る時間がない」「QRコードに苦手意識がある」「過度なデジタル化には慎重であるべき」との意見もあり、世代によって受け止め方に差が見られました。

2 議会だよりを手にとってもらうためには

(1) 第一印象の重要性

「議会だよりを見るかどうかは表紙で決まる」との意見がありました。写真やインパクトのあるデザイン、子どもや中高生の作品を掲載すると関心を引きやすいとの声がありました。目次や見出しについても、より分かりやすい工夫が必要との提案がありました。

(2) 子ども・学校との連携

子どもの姿が掲載されると家庭で話題になりやすいことから、子ども議会の様子を誌面に掲載したり、学校との連携や自由研究のテーマとしての活用などの提案がありました。

(3) 内容構成の工夫

専門用語をできるだけ避け、「何がどう変わるのか」を明確に示すことが重要との意見がありました。議案番号の表記を簡略化することや、グラフの積極活用など、視覚的に理解しやすい工夫を求められました。

(4) 世代に応じた情報提供

若い世代には要点を簡潔に示す形式、高齢者には丁寧な説明、音声対応の検討など、世代ごとのニーズを踏まえた情報提供の工夫が必要との意見がありました。詳細な情報はQRコードで補完するなど、紙面とデジタルの役割分担についても提案がありました。

(5) 情報発信の方法

議会だよりの存在自体が十分認知されていない可能性を指摘されました。プッシュ型の配信方法の検討や、議員の議会活動報告の場において議会だよりを活用するなど、発信方法の工夫が必要との意見が出されました。

3 総括

今回の意見交換を通じ、議会だよりモニター制度は議会だよりへの関心を高める有効な取り組みであることが確認されました。一方で、専門用語の分かりにくさや情報量の多さ、世代間の受け止め方の違い、発信方法などの課題が明らかとなりました。

今後は、「誰に、どんな情報深度で、どのように届けるのか」という視点で、紙面構成および情報発信の在り方について、さらに工夫・検討を重ねてまいります。